

ミカンキイロアザミウマ東北地域個体群のトマト黄化えそウイルス媒介能力は高い

研究のねらい

現在、東北全域に生息する侵入害虫ミカンキイロアザミウマは、トマト黄化えそウイルス（TSWV）を媒介し、多くの野菜や花き類に甚大な被害をもたらす。そこで、東北地域を含めた本種12個体群におけるTSWV媒介虫率を雌雄毎に明らかにし、この地域におけるTSWVによる被害発生の可能性について検討する。

研究の成果

幼虫期にTSWVを獲得した成虫のうち、体内で十分にウイルスを増殖できる（高い吸光度を示す）個体のみが、TSWV媒介能力を持つ（図1）。

東北6県8カ所で採集された個体群の媒介能力は、TSWVの発生がほとんどない中国地域の個体群（島根、広島）に比べて高く、顕著な被害が報告された静岡や高知の個体群と同程度か、それ以上である（図2）。従って、適切な防除策がなければ、東北地域においてTSWVの被害が拡大する可能性がある。

雄は雌に比べて高い媒介能力を持つため（図2）、圃場や施設におけるウイルスの発生を予測する際には、雌雄別に媒介虫率を測定するとともに、個体群内の雌雄の場合（性比）を調べる必要がある。

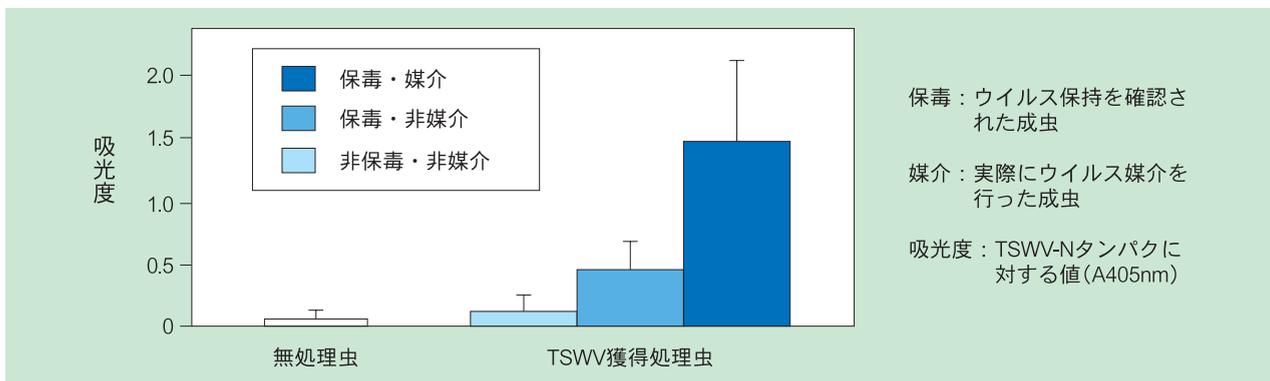


図1 ミカンキイロアザミウマ成虫のTSWV保毒状況と媒介能力の関係

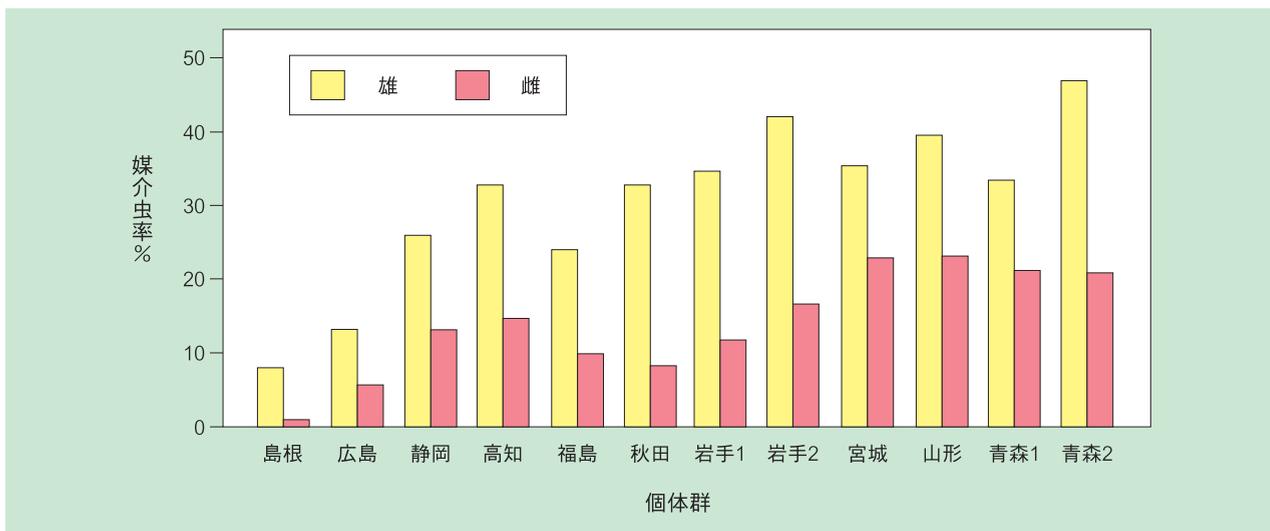


図2 ミカンキイロアザミウマのTSWV媒介能力の地域個体群間及び雌雄間差異

成果の利活用

トマト黄化えそウイルスの防除策を講じる上で有効な指針となる。

成果の発表年 平成13年度

(問合せ先：地域基盤研究部 害虫生態研究室 019-643-3466)